

一歩先の
タラ・レバ
マネジメント

はじめに

タラ・レバ マネジメントで仕事を面白くしよう

目の前の仕事に対する見方を少し変えて、仕事を面白いものにできれば、充実した毎日が過ごせます。少し先の“やりたいこと”を持つことができれば、自分だけでなく、チームもメンバーも成長することができます。仕事に追われるだけでなく、仕事の面白さや新しい働き方を目指すことも、リーダーに求められているのです。

それを実現するために、大げさなくみや難しいマネジメントに関する勉強をする必要はありません。リーダーが、見方や考え方、行動を少し変えればよいだけです。その中心になるのが、“タラ・レバ”で考え、“タラ・レバ”で仕事をすすめる「タラ・レバ マネジメント」です。

タラ・レバ マネジメントは、仕事の第一線に立つ現場リーダー、職場リーダーのための仕事の流儀です。「こうしたら…」「ああできれば…」と、ありがたい姿を考え、「どうしたら…」「こうすれば…」と悩み、試行錯誤するプロセスも楽しみながら、メンバーとともに“やりたいこと”にチャレンジしていくためのものです。

「～せねば」「～すべき」と“ネバ・ベキ”で周囲を動かすことはしません。広い視点で柔軟に考え、何をなせたいかを周囲やメンバーに公言することで、自然に協力してもらえます。そして、力を入れ過ぎずにまずやってみます。いつの間にか、“やりたいこと”を実現し、リーダーもメンバーも成長していることを目指すための方法です。

タラ・レバ マネジメントの“成功の鍵”は、何といても“ポジティブシンキング”です。リーダーがポジティブ、すなわち目標に対して楽観的な視点で考え行動し、挫折してもすぐに立ち直り、再挑戦することです。

タラ・レバでポジティブに、仕事を面白くしていきましょう。

目次

はじめに	3
第Ⅰ部 何をなせたいかを明らかにし公言しよう	5
第1章 タラ・レバで少し先のことを考えよう	6
1. タラ・レバ発想のすすめ	6
2. タラ・レバで気分も変えよう	8
3. まず目の前の仕事の“希望・期待・願望”を考えよう	10
4. 人は自分の“願望”どおりに行動する	14
5. ゴールを決めれば目標が見えてくる	18
6. シナリオをつくりメンバーと共有しよう	22
第2章 タラ・レバでやりたいことに近づこう	26
1. 自分を鼓舞する大言壮語をしてみる	26
2. 現状打破の発想とチャレンジ精神	30
3. 「木を見て森を見ず」を防ぐ俯瞰思考	34
4. 事実は細部にあり — 現場思考の面白さ	38
5. “三点思考”が論理思考力を鍛える	42
◆研究課題1	46
第Ⅱ部 できない理由よりできることを考え実行しよう	47
第3章 タラ・レバでやりたいことに手をつけよう	48
1. ひとりでやろうとするより、周りを巻き込む	48
2. まずやってみよう — 評価はあとからついてくる	54
3. 小さな失敗に着目すれば大きな失敗が防げる	58
4. 知恵の出どころ — 方法・手段の見つけ方	64
第4章 タラ・レバで仕事の腕を磨こう	68
1. 一歩先を読む力をどう身につけるか	68
2. やるべきことを書き出し、数値化する	72
3. 無から有を生み出す、いままでにない発想	76
4. アウトプットし成功の体験を味わう	80
5. “わずかな差”が大差につながる	84
◆研究課題2	87



第Ⅰ部

何をなぜしたいかを
明らかにし
公言しよう

タラ・レバで 少し先のことを考えよう

1

タラ・レバ発想のすすめ

「タラ・レバ」って何？

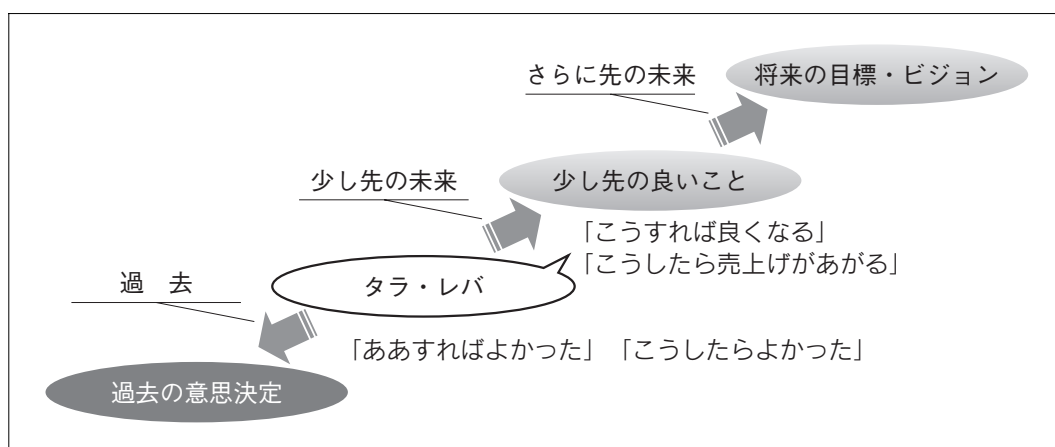
あなたは「タラ・レバ」をよく使いますか。「タラ・レバ」は、どちらかというと「あのときああすればよかった」「こうしていればこうだったかもしれない」と、過去を振り返って悔やんだりする場合に使うことが多いようです。結婚相手探しに苦勞する30代の女性たちを主人公にし、後にテレビドラマ化された「東京タラレバ娘」というコミックがあります。登場人物たちが居酒屋で「あのときあの人とこうしていたら、結婚していたかもしれない」と、過去を振り返るシーンが出てきます。

過去を振り返り
悔やむ

タラ・レバで過去を振り返り悔やむのは、端から見るとあまり格好のよいものではありません。もちろん、過去の行動を検証し、未来の行動に反映させるためにタラ・レバを使うのは悪いことではないでしょう。

未来のことを
考える

タラ・レバは過去を振り返るばかりでなく、「こうしたら、このようになるのではないか」「こうすれば、こんなことも実現可能なのではないか」と、未来のことを考えるためにも活用できます。このテキストでは、自分の仕事や人生の未来を描くためのタラ・レバを考えていきます。このように言うと、「会社では、将来のビジョンを考えろと言われるけど、まったく見当がつかない」「会社の未来のことは、役員や経営企画部の人たちが考えることなのでは」と思う人も多いでしょう。筆者も30代までは、目の前の仕事をこなすことが精いっぱい、会社や仕事の将来、自



図表 1・1 タラ・レバで未来を考える

分の未来などをじっくり考えることはできませんでした。せいぜい1年先の業績がどうなるか、と考える程度でした。研修や書籍で、経営戦略やマーケティングなどを知っても、自分のいまの仕事にはあまり関係ないと思えなかったのです。3年後にどうなっていたいか、将来自分の仕事はどうなっているか、などと考える機会はほとんどないのです。

実際、管理職層に戦略を策定する研修を実施しても、自部門の将来像とその実現のための計画を明確に描ける人はきわめて少ないのが実情です。普段から“未来のこと”や“やりたいこと”を考える機会がありませんからだと思います。

未来のこと
やりたいこと

タラ・レバで“未来”と“やりたこと”を考える習慣を

タラ・レバで過去を振り返るばかりでなく、未来のことを考える習慣をつけましょう。「こうすれば良くなるかもしれない」「こうしたらもっと売上げがあがるかもしれない」と、少し先の良い“未来”と自分の“やりたいこと”を考える習慣が、仕事や人生のビジョンを考えることにつながるのです。たとえば店舗内で、「売れ筋商品をもう少し通路側に置けば、もっと売上げがあがるかもしれない」「この商品の隣に関連のある商品を並べたら、もっとお客様が注目するかもしれない」と、毎日タラ・レバで考えていると、店舗のデザインやレイアウトに興味湧き、「将来は魅力的な店舗のデザインや売り場のマネジメントを手がけたい」という“やりたいこと”が生まれるかもしれません。

仕事や人生の
ビジョン